

7月25日正午必着

明石春浦先生書

程侯新出守 好日發行軍
 能官聖主聞 朝朝待使君
 江樓暗寒雨 山郭冷秋雲
 竹馬諸童子 朝朝待使君

程侯新出守
ていこうあらたにいでてしゆたり
 こうろうかんうにくらく

好日發行軍
こうじこうぐんをばつす
 さんかくしゅううんにひややかなり

能官聖主聞
めいをばいしてしんうらやみ
 ちくほのしやうとうし

朝朝待使君
かんをよくするはせいしゆきく
 ちやうちやうしくんをまん

明石幸子書

(岑参)

春草の萌え初めた池塘に春の回れるを見て細雨中の梅花に詩思は催すのである。

夢回春艸池塘外。

詩在二梅花烟雨雨間一 (楊公遠)

春草の萌え初めた池塘に春の回れるを見て細雨中の梅花に詩思は催すのである。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

納涼高樹下(徐陵)

涼を納める樹高の下

木立ちのかけですすむ。

江南蓮花開 紅光覆碧水
色同心復同 藕異心無異 (蕭衍)

江南蓮花開く 紅光碧水を覆う
色同じく心も復た同じ 藕異なるも心は異なる無し

喜晴 (李敬方)

晴るるを喜ぶ 李敬方

江南の地に蓮の花が開き、紅い光がみどりの水をおおっている。蓮の花の色はみな同じで、心(こころ)もまた同じであり、蓮根(藕)と配耦(はべつ)でも心は異なっていない。

到台十二旬 一片雨中春

台に到りて十二旬 一片 雨中の春

林葉黃梅盡 山苗半夏新

林葉 黃梅尽き 山苗 半夏新たなり

陽鳥朝展翅 陰魄夜飛輪

陽鳥 朝に翅を展べ 陰魄 夜に輪を飛ばす

坐喜無雲物 分明見北辰

坐るに喜ぶ 雲物無くして 分明に 北辰を見るを

障子あけて 風まともなる 涼しさよ 遠くまた近く 松蟬の聲 (土田耕半)



森戸春濤書

半紙部規定課題A

7月25日正午必着

何事不
関情小

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

7月25日正午必着

行書

何事不
關情

隸書

何事不
關情

明石春浦先生書

草書

何事不
關情

行草書

何事不
關情

胸を傷めつつ詩を吟じ、ただひとり歩む。すべてに深い感懐をもよおす。
かの人が魚を釣ったところに久しく立ちつくすとき、ただ鳥の声がきこえてくるだけ。
山中の蔬菜は雨にうたれて枯れ尽き、水辺の樹木が籬の中にはいりこんではえている。
いまわれこの谷川のほとりにあって、君を懐しみ、悲しみ悼む気持をおし静めることができない。

經「周處士故居」

方干

愁吟與獨行

何事不關情

久立釣魚處

惟聞啼鳥聲

山疏和雨歇

海樹入籬生

吾在茲溪上

懷君恨不平

周處士が故居を經

方干

愁吟と独行と

何事か情に關わらざる

久しく釣魚の処に立ち

ただ啼鳥の声を聞く

山疏 雨に和して歇き

海樹 籬に入りて生ず

吾れ茲の溪上に在りて

君を懐みて 恨み平らかならず

朝日新聞社刊
「二体詩」下より

元統三年乙亥歲孟
秋十七辰丁酉初夜纔聞蟋蟀聲
聞蟋蟀聲如蟬單
啼上良久次夜蟬啼
聲更久中宵酷熱

元統三年乙亥歲。孟秋十七辰丁酉。初夜纔聞蟋蟀聲。秋蟬單啼亦良久。次夜蟬啼聲更多。中宵酷熱。



孟秋十七辰丁酉。初夜纒聞蟋蟀聲。



孟秋十七

元・康里子山・秋夜感懷詩

康里子山（一二九五～一三四五・貞元元年～至正五年）。子山は字で、名は巖巖。西域の康里氏、東平王不忽木の子。康里氏は中央アジアのカスピ海の北あたりにいたトルコ系遊牧民で、チンギス遠征の折に連れてこられた。元朝では漢人は虐待され、康里氏のような色目人（雑多な民族）が重用された。

至正四年（一三四四）、江浙行省平章政事として杭州に赴任し、翌五年、翰林学士承旨として大都へ召還せられ、五月大都へ到着後七日目に熱病で没した。五十一歳。

彼の書は、正書は虞世南を師とし、行草は鍾繇、王羲之・王献之を師とし、米芾の影響もうけたと言われている。同時代の趙孟頫の形状の美しさとは異なり、それほど形状の美しさは求めず、比較的奔放に書いていると言われ、一日に三万字を書いたと言われるように、よほど筆は速かったようで、この作品には躍動感があり、しんのしつかりした風格の高さが感じられるとされている。（春濤）



じ ゆう けんきゅう
自由研究

中学一年

雨宮春聲先生書



ちよくしゃ にっ こう
直射日光

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



あたら まち
新しい町

小学五年

榎戸春龍先生書



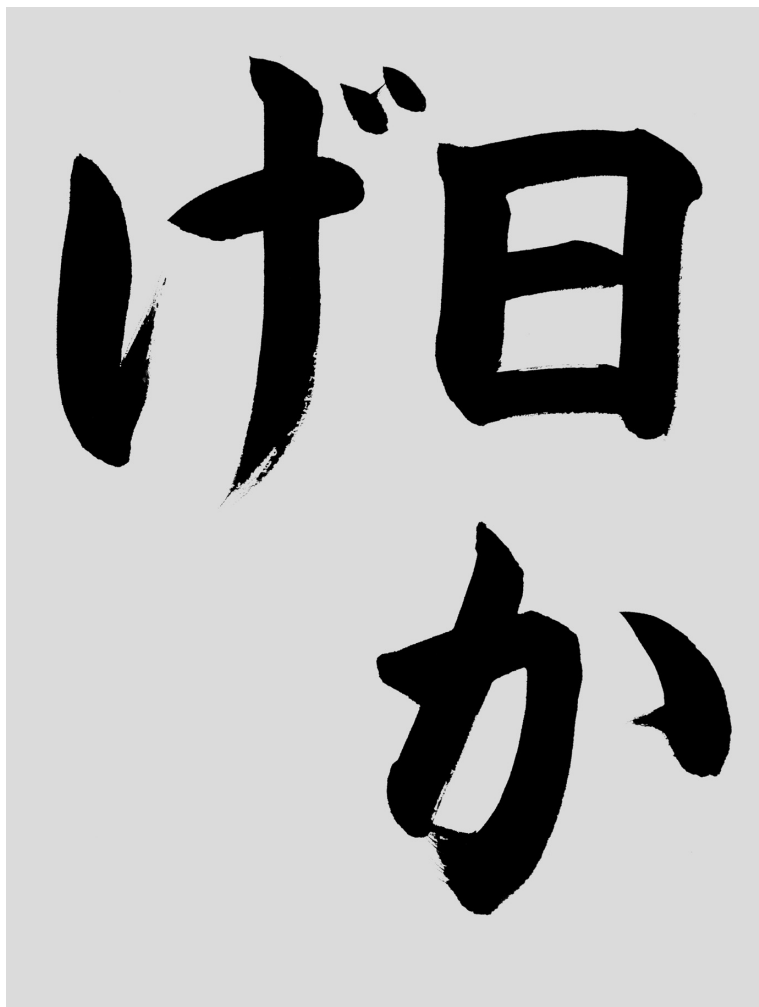
たけ たん ざく
竹に短冊

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着



藤田幸春先生書

ひ 日 か げ

小学三年



細谷春誠先生書

の ほ り 坂 さか

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

は ち 小学一年・幼年



森戸春濤書

う ち わ 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

雲がわき起こった
 海の上に大きな入道

小学五年

鳥の宝庫となります
 夏になると山々は野

小学六年

から発達して来た
 俳句は四百年ほど前

中学

ぬれているようなあの瞳
 白いやうい百合の

一般(級位)

みそぎぞ夏の夕暮れは
 風そよぐならの小川の夕暮れはみそぎぞ夏のしるしなりけり

一般(段位)

かぜ風そよぐ なならの せがは小川の ゆふぐ夕暮れは みそぎみそぎ なつ夏の しるししるしなりけり (従二位家隆)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
 また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

る	よ
	ぞ
ぎ	ら
ん	に
の	
ほ	ひ
し	か

幼年

ぞ	か
ら	が
	や
あ	く
ま	
の	ほ
川	し

小学一年

つ	七
た	夕
	ま
わ	つ
た	り
が	で
し	か

小学二年

美	夜
し	空
い	を
天	な
の	が
川	れ
	る

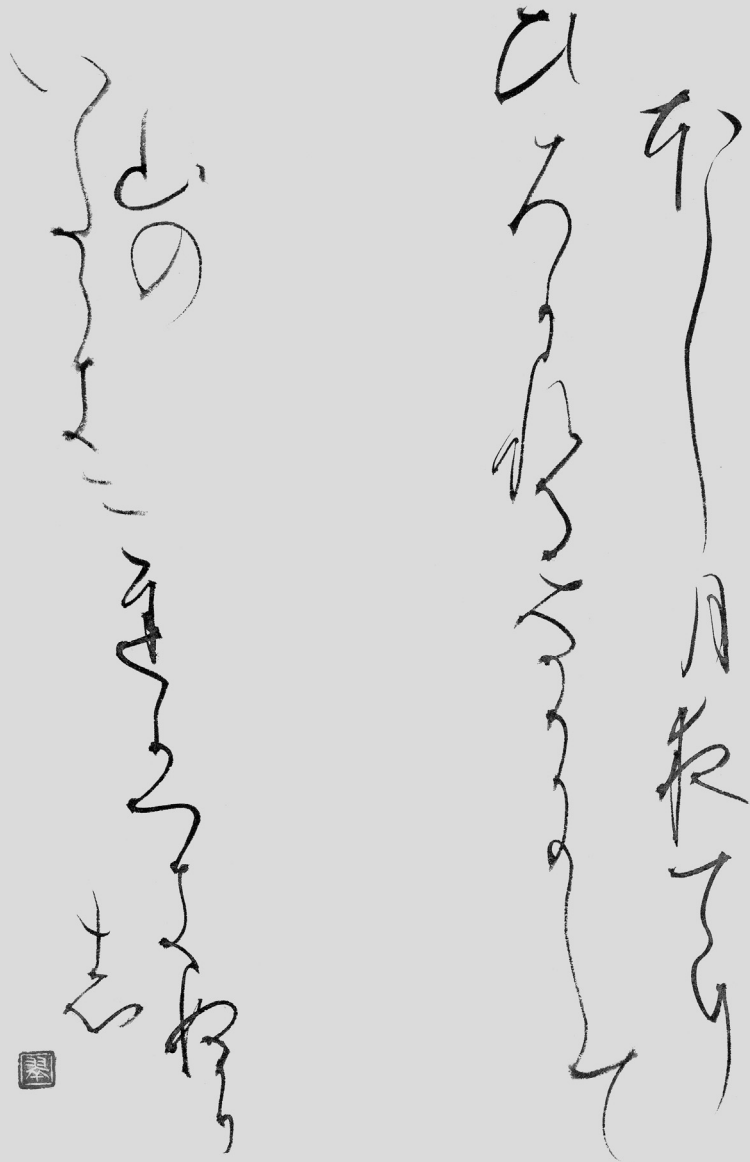
小学三年

く	七
が	夕
夜	祭
風	り
に	の
ゆ	た
れ	ん
る	ざ

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

本ほし月夜
 てりひろ
 可がれる
 奈なか
 可にして
 山
 多のいたゞ
 支きに
 二ちかづ
 遅可きぬ
 支ら
 志し
 (島木赤彦)